



なでしこ

東京都杉並区立大宮中学校 学校だより

令和4年12月23日 第8号(19-61)

発行責任者：校長 関田 誠

『大宮中精神：優しさをもって、夢や目標に挑戦する若者であれ！』

12/7（月） 全校朝礼の話 「世界エイズデーの話」

今朝は二つお話しします。一つは12月1日世界エイズデー。この『レッドリボン』はストップエイズの象徴です。なぜ今朝エイズの話か。日本はエイズの感染者が身近に少ないため、警戒心が薄いのです。でも実は、日本は先進国の中で唯一、エイズの新規患者数が増加傾向の国です。エイズはHIVとも呼ばれ、病原菌から身体を守る仕組みが壊れる病気です。主に感染者との性行為や出産時に感染者の母から子に感染します。感染すると10年程で発症する事が多く、放っておくと死に至る恐ろしい病気です。現在は医学研究者の努力で、治療薬が開発されていますが、未だに治癒、完治することはありません。

世界では、エイズが確認されてから、約40年で4000万人以上が亡くなり、最も感染者が多いアフリカ南部では人口の30%、アメリカでは1%弱のエイズ患者がいると推計されています。日本の現状は、エイズ患者と感染者の合計が累計2万人を超えています。昨年度の新規感染者は717人だったそうです。最初に触れた、他の先進国に比べて日本だけ増加傾向にある原因の一つは、教育にあると考えられています。若者がエイズに対する十分な知識や感染予防法を知らずに義務教育を終えます。その後、無防備に不特定多数の相手と性行為をしたり、身体を商品として売ったり、それを買ったりすることで感染するケースが増えています。新たに感染した患者の三分の一が20代の若者です。検査をして感染が分かった若者の中には、恋人にも家族にも告げられず苦しむ人が多いそうで、まさに悲劇です。また、最近では性感染症の一種の『梅毒』という怖い病気にかかる若者が、急速に増加しているという報道も知っていると思います。気付かないでいると、体中に様々な重い症状が現れます。『梅毒』の感染力は強力で、キスなどの接触でも広がるそうです。若者の間に広がっているのは、軽い気持ちで性的な関係を結ぶことが一つの原因のようです。

私は大宮中の生徒の皆さんに、近い将来にそういう悲惨な事態を絶対に避けてほしい。自分だけは大丈夫という、根拠のない自信は通用しません。今朝のポイントは、まずは皆さんの知識をアップデートして、『エイズや性感染症は、すぐ隣りにある』ということを理解して、危険ドラッグや薬物に手を染めるのと同様の警戒心をもって、一度しかない人生を棒に振ることがないように行動しようということです。

もう一つの話は、体罰、暴力調査についてです。毎年12月に実施しています。生徒の皆さんが、今年度4月から大宮中で先生からの体罰、暴力、暴言等の不適切な指導、あるいは上級生、同級生から暴力的なことをされていないかの調査です。安全で安心な生活を送れることは、学校生活で守られるべきことです。今年度は調査のやり方が、皆さんが書きやすい方法に変わりました。自分以外のことで心配なことを解決するために、この質問用紙に取り組んでください。😊



第23回杉並区中学校対抗駅伝大会2022

～開校75周年を飾る男女アベック優勝の快挙を達成！～

12月4日(月)全校朝礼で、駅伝出場チームを激励する壮行会を行いました。男女両エースが優勝への思いを語りました。「優勝しますと言いたところですが、最低でも5位入賞を目指します」(一兜咲子)「昨年準優勝で悔しい思いをしたので、今年は優勝します！当日応援よろしくお願いします」(漆谷仁)という宣言に対して、全校生徒からの激励の大きな拍手に包まれました。

大会当日12月11日(日)、寒さが一段落して小春日和のコンディションの中、済美山運動場と周囲の川沿いのコースで、杉並区中学校対抗駅伝大会が開催されました。女子のスタートは9:45。スタートの号砲とともに、一走の一兜咲子(2年)が飛び出します。彼女は先日の東日本駅伝で、東京都チ

ームの中学生代表で走って優勝した、将来のエリートランナー候補です。普段は地域の陸上クラブで毎日練習しています。集団を引

き連れてトラックを二周走っている間に、じりじりと差をつけてロードに飛び出ていきます。再び競技場に戻ってきたときは、二位と35秒差、トラック半周離してトップでタスキをつなぎました。二走は増田実桜(1年)が頑張りました。見事32秒差でトップを維持して戻って来ました。三走は日向粋菜(1年)。同様に力強い走りで、53秒差でリードを広げます。このころから大宮の応援席周辺は「もしかしたら？」という空気に包まれます。去年は一走の一兜咲子のリードを守れず9位で入賞を逃しましたが、今回は様子が違います。四走は平川理々(2年)。引き続き力強い走りで36秒差で余裕のリードを保ちます。応援している側も「これは行ける！」という確信の空気が流れてきます。5走アンカーは富永真央(2年)。応援席のまわりでは、スマホのYoutubeの実況放送を観ながら、抜かれないことを祈る姿が見られる中で、競技場に走者が姿を現します。トップは大宮です！その瞬間まわ

りは凄い応援の声です。2位チームに18秒差のリードを保ってゴールイン。優勝です！応援席では戻ってきた女子チームとこれから走る男子チームが円陣を組んで称えあいます。「おめでとう～！」「感動した～」「凄い～」。周りから応援の保護者や地域の方の声が次々にかかります。

男子は女子の予想以上の強さの優勝に、軽いプレッシャーに襲われている様子です。大丈夫か？男子。10:45男子のスタート。一走は漆谷仁(3年)。信頼のエースです。木曜日のタイムレースでは、1500メートルを運動靴で4分15秒のタイムを叩き出した、普段サッカークラブで練習している快速ランナーです。予想通り12秒差をつけてタスキを渡します。二走は安彦春翔(1年)です。今回唯一

の一年生ランナーです。タイムレースではチーム二位の記録をもっていますが、他校の強いランナーに一人抜かれて、1秒差の二位でタスキを渡し

ます。三走は市村幸太郎(3年)。他の4人のメンバーはサッカークラブチーム所属ですが、唯一大宮中バスケット部の生徒です。力走の結果、19秒差をつけて再び1位に返り咲いてタスキを渡します。応援席はまだ油断できないムードです。四走の佐藤禅太(3年)も必死の形相で走り、44秒の大差をつけてアンカーにつなぎました。五走は大熊健太(3年)。去年の雪辱を胸に秘めて走ります。中継を観ていても安定した力走で、悠々トップで65秒差をつけて見事一位でゴールイン。男女アベック優勝です。応援席で男女9人ずつのメンバーが一つの輪になって喜びをかみしめていました。

大宮中開校75周年を飾る記念すべき結果となりました。これまで練習に励んだ選手たち、指導した先生方、応援していただいた全ての方々に感謝します。大きな感動と達成感を本当にありがとうございました。



【JCOMのインタビュー】

女子チーム

一兜咲子（2年）「たくさんの方に応援していただいて、全員が楽しんで精いっぱい走れたと思う。」

できるだけ差を広げて次にタスキを渡そうと頑張った。優勝できてほんとにうれしい」

増田実桜（1年）「緊張しすぎて走る前は涙ぐんだ。何とか一位のままタスキをつなごうと頑張った。」

練習は大変だったけれど報われて良かった」

日向粹菜（1年）「大会までの練習がきつくて、このメンバーだったから耐えられた。優勝できて本当にうれしい。タスキを渡す瞬間うれしくて、半泣きしながら渡した」

平川理々（2年）「一位で来たので私が抜かれたどうしようと思

った。補欠の人、けがや病気の人のことも考えて走った。ベストメンバーではなかったけれど、優勝したのはすごい」

富永真央（2年）「一位で来たので、抜かれたらまずいというプレッシャーがすごかった。たくさんの人の応援のおかげで自分の力

をすべて出せて優勝できた」

男子チーム

漆谷仁（3年）「去年二位の悔しさを晴らせてうれしい。女子が優勝というか圧勝したので、プレッシャーがすごかった。昨日のW杯を観るのを我慢した甲斐があった」

安彦春翔（1年）「先輩が一位で来たのでプレッシャーが半端なかった。一位でつながった。他校の同じサッカークラブの人に自慢していたら、抜かれてしまったのですごく悔しい。次も頑張る」

市村幸太郎（3年）「一位から順位が下がったので気合が入った。途中抜かして一位で四走につながってうれしかった。これまでの練習の成果を全部出しきれた」

佐藤禅太（3年）「二位でつないで、自分が抜いて一位になるシナリオだったけど、前走が一位で来たので緊張した。ペースメーカーの人を抜いてもいいのか悩みながら最後の坂を昇った」

大熊健太（3年）「去年一位で来ながら自分が抜かされてしまったので、今年はそのままゴールイン

できて去年の雪辱を果たせた。「アベック優勝、みんなブラボー、ブラボー、ブラボー！」

練習の裏話

定期考査後に合同練習を開始して、本番の三日前に選手決めのレースを実施しました。

男女各9名の候補生徒が、1500Mを走りタイム順で代表選手を決めました。直前の怪我や病気で出られなかった生徒もいました。5番手の選手と二、三人がなだれ込むようにゴールして、タイム差がわずか一秒以下という光景も見られました。選考レースの結果、女子は伊藤香葉（2年）、山内茜音（2年）、上荒磯美空（2年）、三瀬暖乃（3年）、男子は鬼島大悟（3年）、斎藤優生（3年）、小島竜矢（3年）、菅原健次（3年）の八名がリザーブに回りました。当日は裏方に回ってアップの手伝いや応援に熱心に取り組んでいました。

男女18人が一つのチームになって、練習から大会まで励まし合いながらよく頑張りました。大宮中は193名の小規模校です。この環境で生徒と指導する先生が本気になって挑戦した結果、男女アベック優勝という快挙を達成しました。

渡辺昌幸 監督

駅伝練習の中で、辛い練習の中でもお互い励まし合える環境を作り、その前向きな姿勢が男女優勝という快挙につながったのだと思います。また、「練習がきつかったから、本番は楽に感じ楽しむことができた」との言葉があり、スポーツとしてのあるべき姿を示してくれました。

【2学期の諸活動の記録】

2学期の部活動の活躍

バスケットボール

杉並区バスケットボールシード決め大会

女子 第三位

杉並区バスケットボール新人大会

女子 第三位

サッカー

12/10(土) 練習試合

会場：大宮中 vs 東田中 O4-1

ソフトテニス

杉並区区民大会 出場

杉並区新人大会第一次トーナメント 出場

杉並区新人大会団体戦 出場

杉並区学年別研修大会 出場

1年女子の部

準優勝 上野智賢 小林璃美

3位 鵜石佳奈 菅原朱音

卓球

杉並区新人卓球大会 男子団体戦

新人卓球大会 男子個人戦

新人卓球大会 女子個人戦

第76回 東京都中学校卓球新人大会

男子個人戦 出場

第76回 東京都中学校卓球新人大会

女子個人戦 出場

スポーツチャンバラ

第47回全日本選手権 9月4日

5・6級小太刀第三位 藤原 海音

6級以下長 剣第三位 外山 耕大

5級以下両長剣第三位 外山 耕大

オヤカタの部 優勝 細川 健一

都民杯 〆ふれあい大会 10月2日

中学生小太刀 優勝 福吉 龍

中学生小太刀 第三位 外山 耕大

中学生長剣F 準優勝 塩入耕太郎

中学生長剣F 第三位 大藤 泰河

中学生長剣F 第三位 外山 耕大

中学生楯小太刀準優勝 塩入耕太郎

中学生楯小太刀第三位 渡邊 実慈

都民杯 〆刀法大会 10月30日

刀法団体戦 準優勝 外山 耕大

刀法団体戦 第三位 薦田奈菜子

第46回世界選手権 11月27日

6級以下長 剣 準優勝 福吉 龍

6級以下両長剣 準優勝 福吉 龍

オヤカタの部 第三位 細川健一

イベント参加

10月10日 武道フェスティバル

10月16日 リンク国立

10月22日 スポーツフェスタ

10月23日 みんなのスポーツ塾

初段取得 3年生5名

ボランティア

○手話・点字・モールス信号

○美化活動 校庭の落ち葉掃き

○杉並区中学校駅伝大会応援旗のメンテナンス

○百人一首カードの枚数確認

○ダンス発表会、ふれあい運動会のお手伝い等

自然科学

杉並子どもサイエンス・グランプリ参加。

授業でできない科学実験。

美術

○生徒会からの依頼で SDGs に関するポスターを作成

○おちゅうギャラリー、美術室前掲示板での作品展示

○「工芸高校夢コンペ」に出品

軽音楽部

○7、12月に校内ミニコンサートを実施

○済美養護学校「クリスマス懇親会」への参加

フレンドクラブ

「全員で楽しむ」ことを目標に、カードゲームや様々なスポーツに取り組んでいます。また、1学期・2学期の思い出のコラージュを作り、廊下に掲示しています。

☆税についての作文コンクール

銅賞 安藤瑠音(3年)

☆「薬物乱用防止」ポスターコンクール

入賞 薦田 奈菜子(1年)

☆「心のバリアフリー」普及啓発ポスターコンクール

優秀賞 吉村 眞生(1年)



by 燈子